

# 「カヌー研修」プログラム

国立江田島青少年交流の家

## 1 活動内容

瀬戸内海の広島湾に開けた自然豊かな水泳場（幅約100m、沖に約50m）で、カヌー研修ができる。シットオンタイプのカヌーを使い、2～3人のバディで安全を確認しながら水上を自由に移動することを楽しむことができる。

## 2 活動のねらい

基本的なカヌーの漕艇技術を身につけさせるとともに、安全に留意して活動する態度を養う。

カヌー研修を通して、海に親しむ態度や心情を育み、自然の中で活動することの楽しさを味わわせる。



### シットオンタイプ

乗降や取り扱いが簡単な初心者向けのカヌー。落水時も立て直しが容易にできる。

## 3 研修対象者

小学校5年生以上とする。ただし、保護者又は責任の持てる引率者と組んで活動する場合はこの限りではない。

## 4 研修人数

最大90人（3人バディ×30艇）

2～3名でバディを組み実施する。

※他団体と活動が重複する場合は調整する。

※潮位の関係で30艇出せない場合あり。

## 5 実施時期、研修時間

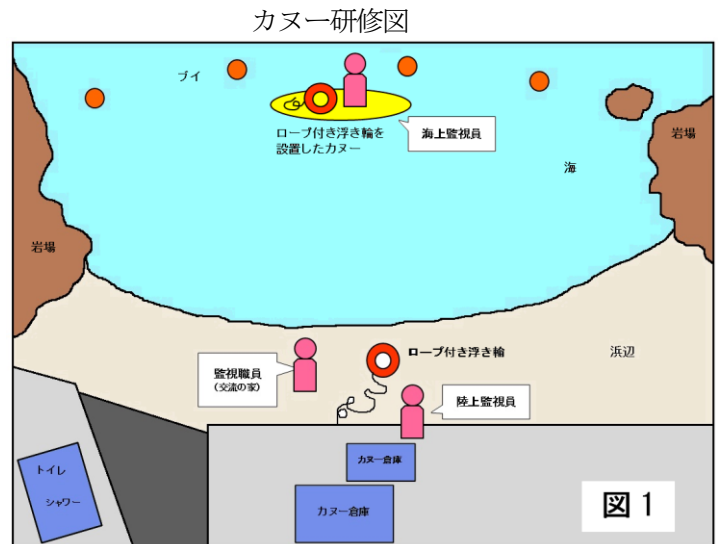
(1) 実施時期 7月1日～8月31日

(2) 研修時間

午前 9:00～11:30

午後 13:30～16:00

※他団体と活動が重複する場合は調整する。



総括責任者、指導担当者、救護担当者  
(適切な場所に配置する)

## 6 実施の可否

(1) 判断時期

①午前の部…8時40分 午後の部…13時10分 (いずれも研修当日)

②活動実施中…随時

(2) 可否基準

以下の①～⑪の場合、活動を実施しない。

- ① 水温が20℃未満の場合
- ② 瞬間風速5m/s以上
- ③ 波高0.7m以上（白波が見受けられる状態）
- ④ 局地風（突風）がある場合
- ⑤ 台風の接近が予想される場合
- ⑥ 強風注意報及び暴風警報が発表されている場合
- ⑦ 大雨注意報及び大雨警報が発表されている場合
- ⑧ 波浪注意報及び波浪警報が発表されている場合
- ⑨ 津波注意報及び津波警報が発表されている場合
- ⑩ 雷鳴がしている場合
- ⑪ その他、特にカヌー乗艇に不適切と判断した場合

(3) 可否の連絡方法

① 上記(1)①の場合、

交流の家職員(以下「職員」)から9(2)①の総括責任者に連絡する。

② 上記(1)②の場合

ア 9(1)の監視職員が活動を中止すると判断した場合は、直ちに総括責任者に連絡する。

イ 交流の家所長が活動を中止すると判断した場合は、直ちに職員は監視職員を通じて総括責任者に連絡する。

## 7 継続研修時間

1回のカヌー乗艇時間は20分以内とし、休憩は必ず10分以上とる。

## 8 準備物

- (1) 個人…服装は水着、濡れてもよい靴(脱げにくいもの)、ビーチウェア(Tシャツ等)とし、日射病・熱中症予防のためにタオル、帽子、飲み物を用意する。また、必要に応じて着替えを持参する。
- (2) 交流の家(事務室)…ハンドマイク1、救急箱1、救急法の基礎知識1、心肺蘇生法マニュアル1  
ホイッスル3、水温計、風速計
- (3) 交流の家(カヌー倉庫)…(救助用)救助用カヌー1、救命胴衣1(海上監視員用)、ロープ付浮き輪2  
(研修用)カヌー、パドル、救命胴衣 各必要数

## 9 指導・安全管理

(1) 指導者の配置・人数・役割分担

研修中、交流の家は監視を行う職員(以下「監視職員」)1名を配置する。  
研修は、「カヌー研修」プログラムをもとに団体が、指導及び安全管理等を行う。なお、10(6)の指導については監視職員が行う。

(2) 引率者の配置・人数・役割分担(前ページ図1参照)

活動団体で次の役割を持たせる。(小規模の団体は担当を兼ねられる)

① 総括責任者(全体の総括・指導)…1名

\*実際の引率指導に当たっている団長(学校長、教頭、学年主任等)

② 指導担当者(用具の準備・後始末の指示、指導及び安全管理)…1名以上

\*事故があった場合救助に向かう引率者、緊急時に備えライフジャケットの着用

③ 監視担当者

陸上監視員(陸上からの監視・安全管理)…1名

海上監視員(海上〔カヌー〕からの監視・安全管理)…1名

③ 救護担当者(健康観察・応急処置)…1名以上

【留意事項】 陸上監視員と海上監視員は兼ねることはできない。

(3) 事故発生時の処置

① 監視職員:事故の状況を把握し、交流の家に連絡をする。

ただし、緊急時には、直接江田島消防署、江田島警察署、第六管区海上保安本部に連絡を入れ、その後交流の家に連絡をする。

② 総括責任者:事故の状況を把握し、監視職員に報告する。

③ 指導担当者:事故現場が浜辺に近い場合、浜辺からロープ付浮き輪、救助棒で救助する。

(図2参照)

④ 監視担当者

陸上監視員:事故をホイッスル等で直ちに連絡し、ハンドマイク等で全員陸に上がるよう指示し、人数、名前を確認する。

海上監視員:事故をホイッスル等で直ちに連絡し、救助用カヌーで事故現場付近に速やかに行き、備え付けのロープ付浮き輪、又はカヌー本体で救助する。(図3参照)

⑤ 救護担当者:応急処置を行う。

事故発生の連絡が交流の家にあった場合、所長は複数の職員を現場に派遣し、救助、応急処置に加わらせるとともに、搬送用の車を手配する。緊急時には、江田島消防署、江田島警察署、第六管区海上



図2



図3

保安本部に連絡を入れる。(①ですすでに連絡済の場合、不要)

## 10 展 開

- (1) 「カヌー研修実施届」及び「カヌー研修参加者名簿(宿泊者名簿)」(以下「実施届等」)の提出  
実施届等に必要事項を記入し、総括責任者がカヌー研修の当日までに交流の家へ提出をする。
- (2) 事前打合せ  
職員と総括責任者の打合せ
  - ① 研修生の健康状態に十分配慮し、体調不良者はカヌーをさせないことを説明する。団体から提出された「実施届等」の変更の有無を聴取し、変更がある場合は修正する。2部コピーし、1部は監視職員に、もう1部は総括責任者を通じて指導担当者に渡す。(原本は交流の家事務室用)
  - ② 「カヌー研修」プログラムを基に研修の実施方法、救助道具の使用法、安全管理等を説明する。
- (3) 交流の家出発  
(指導担当者)
  - ① 交流の家(事務室)からハンドマイク1、携帯用救急バッグ1、緊急対応資料1、救急法の基礎知識1、心肺蘇生法マニュアル1、ホイッスル3を受け取る。
  - ② つどいの広場(ピロティ)に班毎に整列させる。
  - ③ 救護担当者に健康観察を行わせる。
  - ④ 実施届等で、参加者、見学者、引率者の人数、名前を確認する。変更がある場合は実施届等を修正する。
  - ⑤ 目的を説明する。
  - ⑥ 班毎に2列縦隊で水泳場に引率する。(水泳場まで約1km)

※ 参加者の更衣場所は、宿泊棟を原則とする。使用できない場合は指定した場所で更衣する。
- (4) 水泳場到着
  - ① 利用団体は、監視職員の指示により、カヌー倉庫から清掃道具、使用するカヌー(救助用カヌー1を含む)、救命胴衣(海上監視員用含む)、ロープ付浮き輪2を出す。
  - ② 海上監視員は、救命胴衣を着用し、救助用カヌーを浜辺に設置し、ロープ付浮き輪を乗せる。(6)④の説明があった後、カヌーに乗って所定の位置に移動する。(1ページ図1参照)
  - ③ 陸上監視員は、ロープ付浮き輪を所定の位置に設置する。(1ページ図1参照)
  - ④ ②、③の関係者以外の者は、浜辺の清掃をする。(10分くらい)
- (5) 健康観察、人数、名前の確認  
(指導担当者)
  - ① 指導担当者は、浜辺に班ごとに整列させてバディ(2~3人)を組ませる。
  - ② 救護担当者に健康観察をさせる。
  - ③ 実施届等で参加者、見学者、引率者の人数、名前を確認する。変更がある場合は実施届等を修正し、監視職員に報告する。変更のない場合もその旨報告する。(変更がある場合、監視職員は所持している実施届等を修正し、交流の家に連絡する。)
- (6) 監視職員による指導
  - ① 注意事項の説明をする。



カヌー倉庫内

水辺活動は特に危険を伴い、事故は死につながります。注意事項を確実に遵守してください。

- ・カヌーは20分以上続けなくて交替する。休憩は必ず10分以上とる。
- ・カヌーは特に危険を伴い、事故は死につながる。
- ・バディを組み、ともに行動する。
- ・必ず救命胴衣を着用する。
- ・はだしになって活動をしてはいけない。
- ・担当者の指示に従い、悪ふざけや勝手な行動は絶対しない。
- ・体調が悪くなったら早めに活動をやめ、救護担当者に連絡をする。
- ・体調不良者はカヌーに乗らない。
- ・事故を目撃したり、ケイレン等が起きたりしたら直ちに大声で叫ぶ。
- ・境界プイ(岬と岬を結ぶ線)より沖側に出たり、岩場には近づいたりしない。
- ・休憩時間は海に入らない。

- ② 準備運動や見学者はカヌーを行っている者をよく監視し、勝手な行動をしない。

- ③ 救命胴衣を着用させる。(個に適した大きさの物を使用する。紐をしっかりと締める。)
- ④ カヌーの操船方法及び落水時の救助法等の説明をする。

・パドルの扱い方  
 ・救命胴衣着用時の浮き体験及び落水時の救助法

- ⑤ 班毎にかたまってバディ同士でお互いを確認しあいながら、カヌーを始めさせる。
- ⑥ 交代及び休憩時のカヌーの扱いについて指導を行う。
  - ・交代時、カヌーは砂浜に一度引き上げ、向きを変える(水上で向きを変えない)
  - ・休憩時には、カヌーを砂浜に引き上げておく。

(7) 団体による研修指導

(指導担当者)

- ① 監視職員による指導にならない繰り返し指導を行う。
- ② 休憩のため海から上がった時と休憩後海に入る時は、次のことを行う。
  - ア 班毎に整列させバディを組ませる。
  - イ バディ同士で互いの確認をさせるとともに、実施届等で参加者の人数・名前の確認をする。
  - ウ 救護担当者に健康観察をさせる。
  - エ イウの状況を監視職員に報告する。実施届等に変更がある場合は修正する。(変更がある場合、監視職員は所持している実施届等を修正し、交流の家に連絡する。)

(8) カヌー実施後

(指導担当者)

- ① 浜辺に班毎に整列させバディを組ませる。
- ② バディ同士で互いの確認をさせるとともに、実施届等で参加者、見学者、引率者の人数、名前を確認する。
- ③ 救護担当者に健康観察をさせる。
- ④ ②③の状況を監視職員に報告する。(監視職員は、その旨を交流の家に報告する。)
- ⑤ 整理運動をさせる。
- ⑥ 使用したカヌー(救助用カヌー1を含む)、救命胴衣(海上監視員用含む)、ロープ付浮き輪2をトイレから引いたホースで洗浄し、カヌー倉庫に片付けさせる。(図4)
- ⑦ トイレ掃除をさせる。
- ⑧ カヌー倉庫内をほうきで清掃し、清掃道具を片付けさせる。
- ⑨ シャワーを浴びさせる。
- ⑩ 持参したゴミ等は必ず持ち帰る。

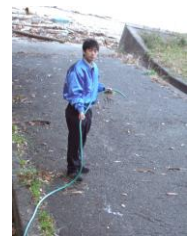


図4

(9) 水泳場から交流の家へ出発

指導担当者が、参加者を整列させ、2列縦隊で青少年交流の家に引率する。

(10) 帰着

- ① 更衣等の諸連絡をし解散する。  
更衣の際は、足をよくふいて宿泊棟に入るよう指導する。
- ② ハンドマイク1、救急箱1、救急法の基礎知識1、心肺蘇生法マニュアル1、ホイッスル3を交流の家(事務室)に返却するとともに、カヌー研修が終わったことを報告する。

## 1.1 連絡先

	一般電話番号	緊急通報用電話番号
江田島消防署(救急係)	TEL (0823) 40-0358	119
江田島警察署	TEL (0823) 42-0110	110
第六管区海上保安本部	TEL (082) 251-5111	118
国立江田島青少年交流の家	TEL (0823) 42-0660 (0823) 42-0661	